

日本とシンガポールの贈り物の習慣の比較  
(Comparison of Gift-Giving Culture between Japan and Singapore)

カン、ニン レベッカ  
Nin Rebecca Kang

82-272 Intermediate Japanese II

---

私のトピックは贈り物の習慣で、私はシンガポール出身だから、日本とシンガポールの贈り物の習慣を比較する。このトピックを選んだ理由は、両国の贈り物の習慣は一般にだいたい同じだけれども、ニュアンスが違うと思う。この意味合いはとても面白いし、比較すれば文化によって違うことが分かる。このようにすると、日本人とシンガポール人の考え方がよく分かると思う。

日本では、一般的に、贈り物をあげる時、贈り主は丁寧に「つまらないものですけど。。。 」と言ってあげるそうだ。そして、相手は受け取った時絶対に贈り主の前で贈り物を開けてはいけない。結婚披露宴では、お祝いは必ず奇数であげる。教科書によると、学生でも結婚披露宴にお金を持って行くそうだ。お年玉について、正月の時に大人は子供にお金をあげることになっている。金額は子供の年齢によって違い、大学生になるまでもらえる。普通、お年玉を「ポチ袋」と言うかわいくてカラフルな封筒に入れてあげる。

シンガポールでは、贈り物の習慣はちょっと違う。一般に、贈り物をあげる時、贈り主が使う決まり文句がない。他方、贈り物をもらう時、受取人は丁寧に二、三回断った後で受け取った方がいい。しかし、日本と同じく、受取人は受け取った時絶対に贈り主の前に贈り物を開けてはいけない。結婚披露宴には、8 で終わる数字のお祝儀をあげることになっている。学生だったら、お祝いをあげなくてもいい。春節の時、お年

玉見たいの「赤袋」と言う贈り物を夫婦は独身者や子供たちにあげることになっている。日本と違い、シンガポールでは赤袋の金額は親によって違う。そして、大学を卒業した独身の子女でさえももらえる。名前によると、赤袋はめでたい赤い封筒に入れてあげる。デザインは普通あの年の星座の動物である。

このトピックについて、スピーキングアシスタントや日本人ゲストに質問してもらって、面白いことが分かった。最初に、一般の贈り物をあげる事について、この時代にはとても便利だけれど（例えば、デパートで贈り物をオーダーすれば、相手の家に直接に届けらる。）、大森さんと木原さんが賛成して、贈り物の意義は少し失われていた。でも、大森さんによると、その習慣を続けることによって、日々の感謝を伝えることができる。そして、木原さんに説明した、相手は遠い地方に住んでいるなら、この習慣は当たり前だ。他方、山内さんによると、バレンタインデーの時、チョコレットを直接に渡すのは大事だから、この季節の贈り物習慣の誠意はまだ失わなかった。次に、結婚披露宴について、金野さんと木原さんが両方も賛成して、最近結婚披露宴が小さくなった。木原さんによると、この時代には **SNS** が盛んだから、ますます日本人は **SNS** で結婚した事を伝えているので、今結婚披露宴が小さくなった。しかし、金野さんによると、結婚は一期一会のことだから、親は普通に金に汚くないので、贅沢な結婚披露宴はまた通常らしい。最後に、正月の時に、山内に説明した、毎年12月30日から1月3日までに、日本人は会社で働かないで、帰省して家族で集まる事になっている。この間に、大人は子供にお年玉をあげる。でも、会えなかったら、その年に初めて会う時に渡してもいいそうだ。さらに、大森さんによると、お年玉は親族にしかあげない。そして、ポチ袋のチームは毎年干支に関係するデザインである。大人になったら、収入を

稼いだ後でお年玉をあげる。アルバイトをしているの場合、お年玉はあげなくてもいい  
そう。

結論として、確かに両国の贈り物の習慣は一般にだいたい同じだけれども、ニュアンスが違うと思う。例えば、私の意見では、日本では遠慮は大切なことだから、贈り主は丁寧な決まり文句を言った方がいい。他方、シンガポールでは、欲張りらしくないように、受取人は当初に断った方がいい。さらに、両国の人々は結婚披露宴にはお祝いをあげるけれど、ゲン担ぎは文化によって違うので、金額も違う。日本人だったら、偶数のお祝いが離すという意味を含有するそうだから、奇数をあげた方がいい。ただし、シンガポール人だったら、中国語で8の発音と栄えるという言葉の発音は同じで、8で終わる数字は目出度い概念だから、こんな数字のお祝いをあげた方がいい。スピーキングアシスタントや日本人ゲストと会話して分かったことを省みて、他のニュアンスや類似点を考えついた。例えば、正月の時、日本と違う、シンガポールでは、お年玉は親族だけにあげない。誰か家に訪ねれば、訪問者は独身の若い人なら、赤袋をもらえる。他方、両国では、正月という季節は依然に伝統を反映している：お年玉は毎年干支に関係するデザインの封筒に入れてあげる。こんな意味合いはとても面白いと考える。